

一般質問のその後

一／般／質／問

どげんなっとうと？

オアシス運動を問う

定着させたい

問

今、どの自治体でも挨拶運動の推進がなされています。先の震災での教訓として、人と人とのつながりや絆の大切さが見直されています。その最たるものが挨拶だと思います。

少子高齢化が進むにつれて、コミュニティの重要性を実感しています。当町でも、校区コミュニティや行政区を中心に老人クラブ等、各種団体のボランティアの人たちによって、子どもたちの見守り活動をとおして、

数年前からオアシス運動が取り組まれています。

町民がどこでも誰とでも挨拶ができる環境づくりが求められます。

須恵町での現在までの進捗状況と今後の対応策を問います。

答 平松教育長

オアシス運動は、本町では昭和58年から取り組んでおり、明るく住みよい地域をつくるには、まず挨拶が大切として始められました。その後、平成21年6月議会



藤石 豊 議員

過去の一般質問の状況を追ってみました。

どうなった？

がん対策の充実は

問

がんは日本の死亡原因の第1位で、死因の3割を占めており、日本は世界一のがん大国となっています。町の取り組みや検診受診率を上げる施策について伺います。また、国の予算でがん検診の無料クーポン券の配付が盛り込まれていますが、町としての対応をお伺いします。

答 中嶋町長

検診受診率を上げるには、受診しやすい形態を作ることだと思います。

がん検診の無料クーポン券の配付は、厚生労働省から福岡県に通達がないので、具体的な内容が分かった時点で報告があると思われます。(平成21年6月定例会)

◇その後◇

がんによる死亡者数を減少させるためには、がん検診の受診率を向上し、早期に発見することが極めて重要であることから、受診勧奨として、クーポン券によるがん検診の受診に必要な費用を助成する事業を行い、健康意識の普及啓発に取り組んでいます。また、平成23年9月には、受診率向上の一環として、乙植木区の協力を頂き、身近な場所で受診が出来るように、乙植木コミュニティセンターで住民検診を実施しました。

【がん検診推進事業への取組】

◇平成21年12月～女性特有のがん(子宮頸がん・乳がん)検診の無料クーポン券の配付を開始しました。



検診車

◇平成23年度～大腸がん検診の無料クーポン券の配付を追加しました。

(対象者)

*子宮頸がん…20・25・30・35・40歳の女性
*乳がん…40・45・50・55・60歳の女性
集団検診や個別検診(県内広域医療機関含む)で受診できる体制を整備しました。

(対象者)

*大腸がん…40・45・50・55・60歳の男女
集団検診で受診できる体制を整備しました。
個別検診で受診できる体制の整備については、今後医師会と協議する予定です。

【子宮頸がん等ワクチン接種事業への取組】

◇平成23年3月～子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種について、接種費用の助成を開始しました。

(対象者)

*子宮頸がん予防ワクチン…高校1年生の女子(平成23年4月～対象者の枠を広げ、中学1年生～高校1年生の女子としました。)
*ヒブワクチン…0～4歳
*小児用肺炎球菌ワクチン…0～4歳

平成24年3月31日までの事業とされていましたが、平成24年度以降についても継続するよう国で協議されています。



新原北交差点「オアシス運動」看板

において、オアシス運動の復活を説明した経緯があります。今現在の取り組みは、各行政区にオアシス通りを指定していただき、23年9月にオアシス通りのロゴマークを募集、24年度からの事業として指定した道路にロゴマークをプリントし、何らかのイベントを計画し、この運動を定着させたいと考えています。小学校では児童運営委員会、中学校では生徒会が運動の中心となり全校的に取り組んでおり、どの学校でも気持ちのいい挨拶をするようになりました。

答 中嶋町長

「やってみせ、言ってみせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉があります。大人がやってみて、子どもたちが気持ちのいい挨拶をしたらほめてやることだと思います。